

岡山市 藤原 京華

今回のテーマは「高砂」の相生の松としました。しかし、描くより公募の松を描いてみたいという思いでタイトルを決めてしまいました。

実際にある松ではなく、想像の構成のため、写真はもちろんお手本もありません。いろいろな松を観察し、いろいろな構成を試みました。赤松と黒松の描き分けに気がつ

け、赤松はやわらかく伸びやかに包み込むイメージ、黒松は、強く曲がりくねりながら困難を乗り越え逞しく生きていくイメージ、松が支え合い会話をしている思いで描きました。

大和郡山市 池田 裕子

今回の作品「千歳の段々」は遠くに離れて住んでいる孫の成長を喜び、これからの長い人生の幸福を願って描きました。お母さんを手をつなぎ、神社の階段を一生懸命に登っている感じを出せたらと色々工夫をしました。

一人の子どもの幸せを思いながら、そのまわりの環境やこれからの世の中の平安も自然と思われた

作品となりました。

これからも水墨画についていろいろな事を学び豊かな時間を過ごしてまいりたいと思います。

奈良県吉野郡 伊藤 正

「吉野山かすみの奥は見えねども見ゆる限りは桜なりけり（八田知紀）」の歌にある 霧の吉野山は、霧が近景・中景・遠景をつないでくれるので形としてまとまりやすいところがあります。

霧が主となってぐっと前面に出て、近景の桜は描くのが難しくて霧にして省きました。それによって空間が広がり、全体のバランス

が評価されたように思われます。

今後は、筆先に思いを込めて水墨で描いたものが、色が付いていなくても日本画より強く表現できる（日本画表現は難しいが水墨画表現の方が優れる）そのような絵を描いていこうと思っています。

三木市 片寄 知

思い起こせば、第11回兵庫県水墨画協会展を、たまたま、鑑賞させて頂いて水墨画と言うものに感動を受け虜になり、藤原六間堂先生の本を片手に始めました。しかし、壁にぶつかり、限界を感じるようになり、独学は無理かなと

今年、墨牡丹と桂川を描こうと思いました。墨牡丹は先ず、漢詩から発想を得ました。

「松柏千年青 不入時人意 牡丹一日紅 満城公子酔」

「松柏はいつも青く、その為には人は心を打たれないが、命短い牡丹の紅い花は、満都の貴族も魅せさせる。何時もと変わらぬものは目立たず、変わった事には目がいく。」という意味を絵として表現しました。松に気づかれましたでしょうか。山水は毎日見ている桂川を描きました。



京都市立芸大は10月から沓掛キャンパスから京都駅近くへ移転いたします。それを詩画書で表現しました。また、今年も子供たちの作品が展示出来てホッとしています。

特に壹岐さんにご指導いただいた山水の点景の作品は大人では描けない味のあるもので良い作品が出来ました。

林 静佳 (神戸市西区)

思っている時に、この賞を頂きました。少し自信がつき、これから私なりの表現で研鑽を重ねてみようと思えるようになりました。

明石市 嘉悦 葉香

皆様の力作を拝見し、毎年感動致す事が、私の次のステップへの誘いです。水墨画の奥深さ、極意はどこまで深いのでしょうか。難しい事は考えないで、自分なりに自由に描きを楽しんでいます。

この度の絵も釧路湿原の旅の中で出会った風景画ですが、美しい不思議な世界でした。思う様に描けなくて、苦心作です。これから、心身一如の日々のもと、描き続けてみたいと思います。

江別市 中村 礼子

作品名「春はすぐそこだ」は北国北海道ならではの雪解けの早さと護岸のない小川が勢い溢れるその大地のエネルギーを描きたかったのですが、自分の考えている表現とかけ離れてしまった。毎日の様に通る沢の上り下りの一瞬です。

この様に自分の感情で表現して作品へと仕上げていく難しさを毎



◀くらしのアート部門 作品例



日感じている。しかし失敗を含めても、やはり水墨画が好きと言いたいから不思議である。

秀作選抜淡路展を終えて

南あわじ市 的場 哲也

搬入日 作品44点を淡路文化会館に業者が搬入。

次の日 展示作業開始。なかなかほかどらない。そうこうしているうちに、淡路の3人、理事7人参加。その後ボランティアも来てくれ、予定どおり展示作業が終了した。とつても見応えのある良い展示となった。ところが、残念なこと、洲本総局が新型コロナウイルス